

L'OCCITANE
EN PROVENCE

SUSTAINABILITY NEWSLETTER

4

2026 / Vol.8



一步を踏み出す



次の50年へ

2025年度の締めくくりとなる1月から3月は、ロクシタンにとって創設50周年を迎える、ひととき輝きに満ちた特別な期間となりました。この3カ月間にわたる活動の一つひとつは、これまで大切に育んできた価値観を再確認すると同時に、半世紀にわたる歩みを振り返る機会でもありました。プロヴァンスの精神を礎に、人と自然への想いを紡ぎ続けてきた50年。その積み重ねは、今日のCSRやサステナビリティの取り組みへと確かに受け継がれています。節目の年に立ち返りながら、感謝の想いととも、次の50年へ向けた新たな一歩を踏み出していきます。



ロクシタンキャンドルナイト / LEAF、これまでの歩み / B Corp Month
ビーチクリーン活動報告 / 海洋プラスチックの実態

ロクシタンキャンドルナイト

地球の自然にやさしいアクションを。



SHIBUYA TOKYO店

ロクシタンは「美しい地球に、これからも住み続けられる社会」を目指し、ブランド誕生以来、人と自然への敬意を礎としたサステナビリティの取り組みを続けてきました。原料調達から製品づくり、店舗運営に至るまで、その姿勢はあらゆる事業活動に息づいています。中でも近年、特に注力しているテーマが、気候変動への対応としての二酸化炭素排出量の削減です。エネルギー使用の見直しや効率化、環境負荷低減に向けた工夫を重ねながら、事業を通じた責任ある行動を進めています。

こうした想いのもと、2026年1月には、ルミネが掲げる「グローバル & サステナブル」というミッションに深く共感し、「ロクシタンキャンドルナイト」を実施しました。ルミネ店舗をはじめ、SHIBUYA TOKYO店、青山本店メゾン・ド・プロヴァンスにて、夕方から閉店時間まで店内照明を消灯し、LEDキャンドルのあたたかな光のもとで営業を行うこの取り組みは、電気をはじめとする限りある資源の大切さを体感していただくとともに、ロクシタンのサステナビリティ活動を知っていただくことを目的としたものです。



L'OCCITANE EN PROVENCE



ルミネ立川店

やさしい光に包まれた店内は、いつもとは異なる静かで心地よい空間を生み出し、ご来店されたお客さまからは「普段何気なく使っている電気について考えるきっかけになった」「あたたかな雰囲気の中で、ブランドの想いを身近に感じられた」といった声が寄せられました。また、スタッフにとっても、自社の取り組みを直接伝える貴重な機会となり、サステナビリティを“自分ごと”として捉える意識を深める場となりました。



ロクシタンは、これからも多くのステークホルダーと手を取り合いながら、小さな行動の積み重ねが大きな変化につながることを信じ、サステナブルな社会の創出に向けた歩みを続けていきます。美しい地球を次世代へと引き継ぐために——その想いを胸に、未来への一歩をこれからも重ねていきます。



自然への敬意を、行動というかたちに
街の美化活動 LEAFの軌跡



街から、海を守るために

街の美化活動、LEAF（L'Occitane Environmental Action Force）は、ロクシタンが日本独自に展開する社員によるボランティア活動です。環境問題を自分ごととして捉え、行動を通じて社会に働きかけることを目的に、2018年に活動をスタートしました。以来、年に3～4回、街の美化活動を中心とした取り組みを継続しています。活動の舞台は東京や大阪にとどまらず、ロクシタン店舗のある地域へと広がり、全国各地を巡回してきました。そして2025年11月、四国・高松での活動をもって、全国すべての地域での実施を達成しました。都市から地方まで、場所は違っても「街に落ちているごみが、やがて海へ流れ着く」という共通の課題に向き合い、地道な行動を積み重ねています。





2026年2月には、ロクシタングローバルCEO, Adrien Geigerの来日に合わせて、本社のある半蔵門エリアにて美化活動を実施。社員や関係者がともに街を歩きながら、環境保全への想いを共有する時間となりました。ごみを拾う、街の設備をキレイにするというシンプルな行動を通して、参加者一人ひとりが環境問題をより身近に感じる機会となりました。

LEAFの活動は、単なる清掃にとどまりません。社員が皆で街をきれいにするという行動により海洋汚染を未然に防ぐというメッセージを発信し、行動そのものが啓蒙につながることを大切にしています。ロクシタンはこれからもLEAFの活動を継続し、多くの人と手を取り合いながら、街から海を守る取り組みを広げていきます。

一つひとつの行動が、より美しい未来へとつながることを信じて。



2026年2月半蔵門での活動



2026年2月半蔵門での活動

2025年度のLEAF活動振り返り

2025年5月渋谷 & 原宿エリア



2025年10月大阪・天王寺



2025年11月高知・高松



パーパスをかたちにする一ヶ月、B Corp Month

B Corp Monthは、世界中のB Corp認証企業が「Business as a Force for Good」という理念を発信するため、毎年3月に実施される取り組みです。2026年のテーマは「A Simple Symbol, A Powerful Signal. ひとつひとつの『B』が、世界を変える合図になる。」

企業が掲げる小さな“B”の意思表示が、社会や環境に対する大きな変化のきっかけになることを象徴しています。ロクシタンは2023年にB Corp認証を取得し、B Corp Monthにあたる3月には、その意味や背景を改めて社内に発信しました。

B Corpは認証を得ること自体が目的ではなく、日々の業務や一人ひとりの選択を通じて社会にポジティブなインパクトを生み出していくための指針です。ロクシタンはこれからも、B Corp企業の一員として社員の意識向上と企業間の横のつながりを大切にしながら、ひとつひとつの「B」を力強いシグナルへと変え、持続可能な未来の実現に貢献していきます。

ビーチクリーン部 活動報告



湘南の海に、いのちをつなぐために。

2月に実施した茅ヶ崎での活動は、心地よい天候のもと、爽やかな潮風を感じながら行われました。一見美しく見える海岸でも、足元に目を向けると、やはり多くのマイクロプラスチックが確認され、海洋汚染の現実をあらためて実感する機会となりました。

2025年8月には、近隣の鵠沼海岸でウミガメの産卵が確認されており、湘南の海がいのちを育む場所であることへの期待が高まっています。ロクシタンは、茅ヶ崎をはじめとする湘南の多くの海岸で、ウミガメが安心して産卵できる環境を守るため、これからも継続的な活動を通じて、海と向き合い続けていきます。

ゴミの回収量

燃えるゴミ 合計 0.9kg

燃えないゴミ 合計 1.6 kg



(左)マイクロプラスチックを中心に清掃
(下)砂浜のマイクロプラスチック

海に流れ出るプラスチックの現実

美しい地球に住み続けるために、いま知るべきこと



透き通る海と白い砂浜。沖縄でのビーチの写真であれば、美しい楽園の風景を切り取った一枚と想像するかもしれません。しかし、足元に目を向けると、そこには無数のプラスチックごみが打ち上げられているという、もう一つの現実があります。海洋プラスチック問題は、遠い国の話でも、特別な場所だけの問題でもありません。私たちの日常と地続きの課題として、今この瞬間も進行しています。

最新の研究によると、世界では毎分およそ40トンものプラスチックが海へと流れ出ているといわれています。これは、ペットボトル約200万本分に相当する量です。川や風、雨を通じて陸で使われたプラスチックが海へ運ばれ、その多くが自然に分解されることなく、長い年月にわたり海中を漂い続けます。さらに衝撃的なのは、このままプラスチック汚染が進行すれば、2050年までに海の中に暮らす生物の総量よりも、プラスチックごみの量の方が多くなると予測されていることです。

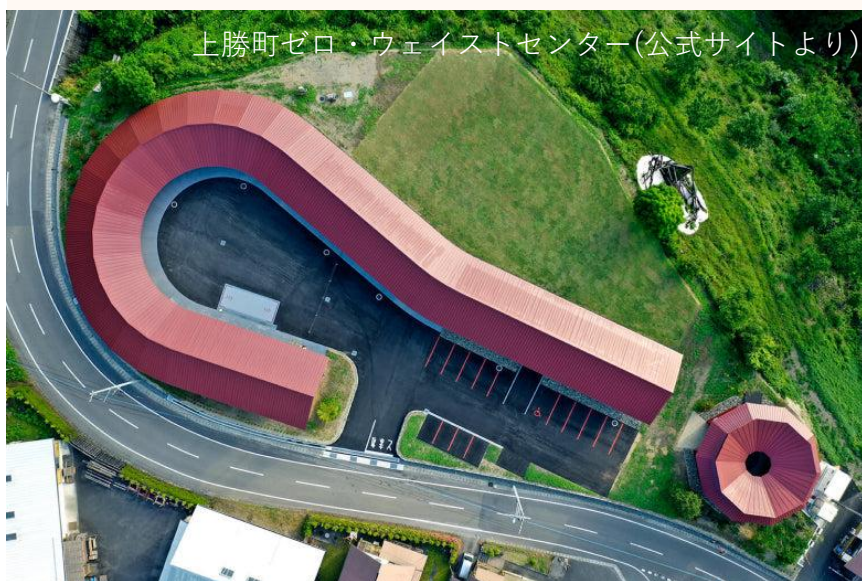


この問題に対し、世界各国でも対策が進められています。国レベルでは、2019年のG20大阪サミットで日本が主導した「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」をはじめ、2050年までに海洋プラスチックによる追加的な汚染をゼロにするという共通目標が国際社会で共有されてきました。



現在は、国連主導のもと、法的拘束力のある国際条約の策定に向けた議論も進んでおり、プラスチック汚染は気候変動と並ぶグローバルな環境課題として位置づけられています。

上勝町ゼロ・ウェイトセンター(公式サイトより)



一方、行政レベルでは、地域に根ざした先進的な取り組みも生まれています。徳島県上勝町は「ゼロ・ウェイトシティ」を宣言し、ごみを極力出さない社会の実現を目指しています。徹底した分別や住民参加型の仕組みは、海洋プラスチック問題の大きな要因である「陸からのごみ流出」を防ぐ実践例として、国内外から注目を集めています。こうした取り組みは、行政と市民が協力することで、環境負荷を確実に減らせることを示しています。





企業にもまた、重要な役割があります。ロクシタンは、「美しい地球に住み続けられる社会」を目指し、プラスチック使用量を減らすためのさまざまな取り組みを進めています。その一つが、レフィル製品の販売促進です。容器を繰り返し使う選択肢を広げることで、使い捨てプラスチックの削減につながっています。さらに、全店舗での空き容器回収プログラムを通じて、使用後の容器が適切に回収・循環される仕組みづくりにも取り組んでいます。

海洋プラスチック問題は、一つの取り組みだけで解決できるものではありません。国、自治体、企業、そして私たち一人ひとりが、それぞれの立場で行動を重ねることで、初めて未来は変わっていきます。海岸に打ち上げられたプラスチックごみは、遠い誰かの責任ではなく、私たちの日常から生まれたものです。

ロクシタンはこれからも、製品づくりや店舗運営、啓蒙活動を通じて、プラスチック汚染の「入口」を減らす挑戦を続けていきます。

美しい地球に住み続けられるように—その願いを行動に変えながら、未来へとつながる選択を積み重ねていきます。

